

特別講演

倉敷川再生活動

—— 生命あふれる清流に ——

石村 陽子

Yoko Ishimura

「蔵おこし湧々」代表理事
倉敷総鎮守阿智神社宮司

江戸時代には天領として栄えた倉敷の繁栄の基は、物流集積地として倉敷川を中心に発生していると言っても過言ではありません。現在は全国各地から訪れる観光客にとって、歴史情緒あふれる倉敷川沿いが一番の魅力ではありますが、美観地区はまだしも、下流はよどんでいて流れていないのが現状で、特に入船橋より下流は水面下にゴミやヘドロがいっぱいたまっています。

この原因のひとつとして、人々の川への想いが次第になくなってきたことがあげられます。川をきれいにするためには、①水に親しむ、②水を汚さない、③コンクリート護岸はできるだけしない、④川に関心を持つ（川を学ぶ・川を知る）ことが重要です。川は地域の人々の心を写す鏡と言われていますが、川と人との絆づくりをしっかりとしていけば、きれいな水の流れる倉敷川になっていき、多くの人々が是非住んでみたいと思う魅力的な町になっていくと思います。「いい川、いい町、いい笑顔」でいるために、市民である私たちができることから始めていこうと思ったのです。

そこで、平成15年8月から開催してきた、「親子で入ろう倉敷川 クリーン&ウォッチング」をはじめ、倉敷川の水辺に親しむ事業を、行政と協働して実施しています。また、倉敷川の清流を未来の世代に引き継いでいくことを目的に、平成19年度から倉敷市市民企画提案事業として助成を受け活動しています。

市民企画提案事業の中では、カワセミやホタルのすめる川づくりのための講演会やシンポジウムを開催するとともに、倉敷川的美観地区を中心に、水辺の生き物調査、親子で入ろう倉敷川、船下り調査、水辺のコンサート、えひめAIを使う水質浄化実験などを実施し、倉敷川の清流保全のための市民活動を実践しています。

これらの市民活動の実践で、より多くの地域住民に倉敷川への関心を持ってもらい、特に、「親子で入ろう倉敷川クリーン&ウォッチング」では、普段入ることのできない美観地区の倉敷川に親子で入り、川の中にどれほど多くの種類の生き物がいるか、どのようなゴミがあるのか、五感で体験してもらうことで、川との絆づくりをしてもらっています。川とともに暮らしがある魅力的な町づくり、未来を担う人づくりの市民活動の輪が広がっていくことを夢見て、毎年「ワクワク」しながら活動を行っています。

プロフィール



1977年 関西学院大学卒業

1999年 「蔵おこし湧々」代表理事。
倉敷警察署協議会会長、伝統的
建造物群保存審議委員会副会長

平成19年度から、「川まちづくり」のための倉敷川「夢」計画を作成し、次の活動を実践してきました。

- ① ホタル講演会
平成19年5月27日（日）
阿智神社参集殿
講師：梶田博司教授（川崎医療福祉大学）
- ② シンポジウム「育てよう ふるさとの誇り倉敷川」
平成19年6月17日（日）
倉敷公民館大ホール
基調講演：村本茂樹教授（吉備国際大学）
パネルディスカッション（パネリスト3名）
- ③ 倉敷川の水質調査・生き物調査
（6月、11月）
倉敷用水（酒津）～倉敷川（藤戸）
講師：田賀辰也先生（岡山県立玉島高校）
- ④ 「親子で入ろう倉敷川クリーン&ウォッチング」
平成19年7月28日（土）
美観地区倉敷川沿い
講師：田賀辰也先生（岡山県立玉島高校）
- ⑤ 「倉敷川の生き物」講演会
平成19年9月16日（日）
倉敷市芸文館アイシアター
講師：田賀辰也先生（岡山県立玉島高校）
- ⑥ かわを通して「まち」を感じてみよう 倉敷川船下り調査
平成20年6月21日（土）
倉敷川・親水公園～藤戸～児島湖
- ⑦ 美観地区の倉敷川についてアンケート調査
平成20年8月11日～31日
- ⑧ 彩り川畔 水辺のコンサート
平成20年9月27日（日）
倉敷川 入船橋の南・親水公園
演奏：内藤貴雄 氏
- ⑨ 「えひめAI-2」の作成とヘドロ浄化実験
平成20年10月5日（日）
- ⑩ 「下水道環境フォーラム in 倉敷」にパネリストで参加
平成20年10月29日（水）
倉敷アイビースクエア・フローラルコート